

# 平成10年度 和歌山県名匠

## 【<sup>はん</sup>反<sup>しゃ</sup>射<sup>ほう</sup>望<sup>えん</sup>遠<sup>きょう</sup>鏡<sup>せい</sup>レ<sup>ざく</sup>ンズ<sup>せい</sup>製<sup>ざく</sup>作<sup>せい</sup>】

### <sup>た</sup>田<sup>さか</sup>阪<sup>いち</sup>一<sup>ろう</sup>郎

【現住所】新宮市

【生 年】昭和4年

#### 業績及び経歴

昭和4年新宮市に生まれる。幼少の頃、父から贈られた玩具のオペラグラスにより、光が屈折し焦点に集まり像を描くという、レンズの持つ特性に興味を持つ。

その後、旧制新宮中学校在学中に学徒動員先の和歌山市で、天体望遠鏡の製作方法と天体観測を記した書籍に出会い、幼少のころの出来事を思い出すとともに、その魅力に惹かれる。

戦後、帰郷し家業であるみかん栽培の傍ら、天体観測に取り組むため、反射望遠鏡を購入するも、そのレンズの精度に満足せず自ら製作に取り組む。

当時は、材料が少ないうえ情報もないという環境であるがため、製作方法や用具、また原材料に至るまで、自らが試行錯誤しながら、知識と技術を蓄えていくこととなった。

こうして、自分のために製作するうちに、その知識と技術に支えられた高い精度が評価を得て、氏のもとには、レンズ製作の依頼が来るようになる。

氏がその情熱と技術を限りなく注ぎ込んで製作した数百に及ぶレンズは、多くの天文台や既製レンズでは満足しない天文家に高い評価を受け、その技術は海外の科学雑誌に紹介され絶賛されるに至った。

また氏は、40年余にわたる自作の反射望遠鏡を使った天体観測の傍ら、地域の子ども達に観測会を開催したり、各地のアマチュア天文家にその技術を伝授するなど、天文学の普及に多大な貢献をしている。

平成10年8月には、こうした活動を高く評価した後輩達が、氏に“星”を贈るため、国際天文連合・小惑星中央局(米国)の小天体命名委員会に働きかけた結果、5年前に発見された小惑星が「Tasaka(6873)」と命名され、同委員会会報紙上で発表された。氏の業績を讃えたその名は多くの偉人達の名前とともに、夜空に輝くこととなった。